

街暮らしの新たな魅力を見つけるために 佐賀で自分らしく暮らす人にお話を伺いました。

メッセージ 神代 宜彦さん クマシロ眼鏡店 店主

PROFILE

佐賀市出身。呉服元町の老舗眼鏡店にて生まれ育つ。高校卒業後に上京し、専門学校を経てそのまま東京でファッション関係の仕事に従事。その後佐賀の中心市街地でエスプラッツの開業計画が持ち上がった際、実家の眼鏡店の今後を考えて帰佐し、五代目としてお店を継ぐことに。そして1998年に店舗が現在の場所（佐賀駅南）に移転して、現在に至る。眼鏡店としては、全国有数の古い歴史がある老舗店舗である。



一 お店はどんなスタイルの眼鏡店ですか？

当店は明治元年創業で、私で五代目になる眼鏡店です。海外の展示会にも足を運び、大量生産品ではないデザインや機能性に優れた眼鏡、デザイン性に富んだものから定番のまで、幅広く世界を舞台に活躍しているブランドを中心に置くようになっています。あと長くメンテナンスしながら使えるというのも大事ですね。そんな一本を、お客様というお話をしながら提案しています。ありがたいことに、何代にもわたって通ってくださるお客様も多いです。

一 海外の製品に目を向けるようになったきっかけは？

以前東京でアパレル関係の仕事に携わっていたことが大きいですね。その繋がりでは普段から六本木など国際色豊かな場所に入り出すことが多く、そこでいろんな国の人のファッションや考え、アイデンティティと触れ、もちろん様々なデザインの眼鏡やサングラスをかけている人達との出会いもありました。当時は今ほどインターネットが普及している時代ではなかったため、佐賀にはわからないことだらけだったと思います。このことは非常に良い経験になりました。

一 そういふ経験がお店の方向性に大きく影響したわけですね。

はい。ただし私がお店を継いだときに、まずは先代が仕入れを完全に任せてくれたのが大きかったですね。今考えると、当時の私は経験が浅かったにもかかわらず任せてくれたなあとと思います。そういう点では先代の社長に大きく感謝しています。

そして眼鏡の機能性や加工技術など、先代達が今まで積み重ねてこられたものを大事にしつつも、従来の間屋ベースに縛られない、新しい仕入れ先の開拓に努めてきました。問屋さんからだけだとどの店も似た品揃えになってしまいますし、眼鏡も時代やファッション、個人の趣味嗜好が変わっていくのもですね。例えば眼鏡の本場はヨーロッパなのですが、最初はフランスにゆかりのあるバイヤーさんと東京で知り合いになったり、自分が気に入ったヨーロッパブランドを調べて少しずつ繋がりを作ったりしながら取引を増やしてきました。また国内では日本の眼鏡の9割くらいが福井県の鯖江で生産されていることもあって、その中でも特にオリジナリティがある商品を扱っている会社と取引してきました。昔の日本ではヨーロッパと違って「眼鏡をデザインする」という考えが今ほどなく、単に「作る」というスタンスが主流でしたが、時代とともに徐々に「メガネのデザイナー」という人達が生まれ、その分野のパイオニアと知り合う機会もでき、いろいろなことを教わりました。

このように国内外の眼鏡の産地と繋がることで、ヨーロッパの最新事情や日本で特に頑張っている人達の情報を得られるようになり、お店の方向性を確立できたのです。

一 ホームページにある「ココロの眼を大切に」とは？

例えば、ある日視力が非常に悪いお客様が来店されて、その方に眼鏡をお選びしたときの話です。私自身が何を基準におすすめしたらよいか、そしてお客様ご自身もどう選んだらよいか、それをいらいっしょのたびに一緒に考えていたのですが、その接客の時に大事だと思ったのが、「ココロ」なんです。正直「ココロ」がどこにあるかは今もわからないのですが、眼鏡を選ぶ際に一番いいものを選ぶという「お互いの気持ち」が大事なんだと思います。もちろん眼鏡をかけたからといってそのお客様の裸眼視力が回復するわけではないのですが、購入されたあとに「周りの人達からよく似合ってるって言われます。気持ちが明るくなって毎日が楽しくなりました！」というお声をいただいた時は、すごく嬉しい気持ちになりました。「やっぱり眼鏡って人の「ココロ」を明るくできる力があるんだな」、「メガネって顔の一部であり、その人のことを印象づけるものなんだ」と実感したのです。このように、日々お客様の「ココロ」を意識した接客をしています。

一 眼鏡店としては全国でも有数の老舗。長く続く秘訣は？

単に眼鏡を販売するだけではなく、地元佐賀の人達と仲良く、長く愛していただけるように普段から行動することだと思います。例えばこれは心の問題なのですが、私は佐嘉神社や八幡神社でよくお参りをします。これは昔から祖父母などが続けてきた習慣で、私もこの土地で商売をさせてもらっていることへの感謝の気持ちを持ちながら続けています。あとお客様との関係としては、例えば二代に渡って来店していただいているお客様もたくさんいらっしゃいますし、全く初めての方もいらっしゃいます。ただ私はお得意様だから特別というのではなく、来ていただいたお客様には平等に、同じように接することを心がけています。

一 佐賀の街で商売を続けていくにあたっての思いや願い

佐賀駅から県庁までの中央大通りというのは、やはりメインストリートなので大事だと思います。物件の所有者さんにも新しいアイデアを持った方が出てくことで、若い人が商売や会社を始めやすい環境が整えばいいですね。うちのお店も賃貸物件なので、家賃を払っていく大変さはわかっています。でも若い人にも是非頑張ってもらって、中央大通りだけじゃなく佐賀の街なか全体がもっと良くなっていけばなあと思います。最近では呉服元町あたりがすごく素敵なエリアになってきているように、良いお店ができると人は歩くようになるはず。よく街なかには駐車場がないと言われますが、個性や特徴があるお店が増えれば、駐車場代を払ってでも街に来ていただけるのではないかと思いますよ！（聞き手：庄野 雄輔）

【INFORMATION】
クマシロ眼鏡店 ☎0952-23-4278 ●佐賀市駅南本町3-23 ●営業時間/10:00~19:00
●定休日/毎月第一火曜 ●駐車場/なし

街なかかわらばん ^{さが} INFO ごあんない

ご意見・ご感想、お問い合わせはコチラへ

街なかかわらばん ^{さが} 編集室

〒840-0826 佐賀市白山二丁目7-1 エスプラッツ2F
【特定非営利活動法人まちづくり機構 コミュニティさが内】

TEL 0952-22-7340
FAX 0952-22-7346
MAIL kawaraban@humanite-saga.com

編集後記
今回は初めて雑貨が中心の特集にしてみました。お店だけでなく、ハンドメイド作家さんのイベント出店も含めると視野が広い分野ですね。是非街なかでの活動が広がってほしいと思います。（編集長 庄野 雄輔）

●アートディレクション・デザイン/松本健児(PINEBOOKS) ●イラスト/山本瑠(CIEMA) ●ライター/原口美希、清家麻衣子、庄野雄輔、江里口里紗、富崎美穂

人とまちをつなぐローカルメディア

街なかかわらばん

TAKE FREE
さが

2021.9.15 号
no.51
Machinaka Kawaraban

街で雑貨を。日常にアクセントを。

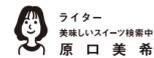


街なかのおすすめ空き店舗情報更新中!
www.kawaraban-web.com

読者の皆様へ
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスク着用・体温管理・手指の消毒、3密を避ける等意識していたいた上で行動をお願いいたします。

毎日の生活を豊かにすること。ある人はそれが美味しい食事だったりするかもしれませんが、またある人はお出かけなのかもしれません。そして他には自分の感性に合う雑貨屋さん足を運んで、自分の生活の一部にすることをイメージしながら、あれもいいな、これもいいなと触れ合う時間が好きという人もいるのではないのでしょうか。そこで今回は街なかで素敵な雑貨に触れられる場所を紹介していきます。是非ご自身の感性に合う一品を見つけてください。

01 ギフトに、ご褒美に。 佐賀の魅力をワンストップで。 SAGA MADDO



コムボックス佐賀駅前1階にあるSAGA MADDO(サガマド)。観光や県産品を中心に、佐賀の魅力発信の場所として2020年6月に佐賀県と佐賀市が共同でオープンしました。ここに並んでいる県産品は、バイヤー目線では選ばれたまさに「佐賀の逸品」ばかり。季節ごとに商品が入れ替えられているため、訪れる度に新しい県産品との出会いがあります。取材時にもわくわくするような出会いがありました。

例えば昔ながらの採取方法でヘチマの茎から一滴一滴を採取した、へちまや群生舎の原液100%の「天然へちま水 せの」。またドリル型のリユーターという道具を使ってドットの一つひとつを削って作られる「副干製陶所の器やアクセサリー」。そして1本の天然木からつくられる文様が美しい「NENRIN CLOCK(時計)」など。その他にも、佐賀県の郷土玩具である「尾崎人形」や「のごみ人形」、「弓野人形」。そして佐賀市諸富町の飛鳥工房がつくる「御朱印帳」、みやき町で作られているロイスの「塩石蝕」などもあります。この場所に足を運ぶことで、佐賀県に生産者さんや職人さんのこだわりが詰まった上質な品々があることを知れて、取材しながら嬉しくなりました。

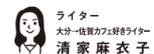
また雑貨だけでなく、佐賀海苔を天然醸造醤油とみりん、麩節と昆布のだてで仕上げた丸秀醤油の「佐賀海苔とろろしょうゆ」のような加工食品も多数あります。この商品は県内のスーパーでも手に入りませんが、SAGA MADDOではオリジナルの容器に入っていて、贈り物にぴったりな品と言えます。

「SAGA MADDO をきっかけに事業者さんのもと足を運んでほしい」とマネージャーの七島さん。実際のいいものに触れられると作っている人に会いたくなり、作られた場所に行ってみたくなりました。SAGA MADDOは「佐賀のいいものをもっと知りたい」という欲求を満たしてくれるとても楽しい場所です。

【INFORMATION】
SAGA MADDO ☎080-2743-2856 (物販) ☎0952-37-3654 (観光案内) ●佐賀市駅前中央一丁目4-17コムボックス佐賀駅前1階 ●営業時間/10:00~20:00 (物販) 9:00~18:00 (観光案内) ●定休日/なし (元日を除く) ●駐車場/なし (駐車サービスあり)

02 隠れ家カフェで、国内外のかわいい雑貨と運命の出会いを

カフェ マチルダ



韓国のマッコリ飲用の器 台湾のカラフルなバッグ、エコバッグにも! マチルダのオリジナルマルシェバッグ マチルダブレンドのコーヒー豆
珈琲チケットで作られたブック マーカー ホッチキス、レッドストック文具房具の一例 陶器のピッチャー(日本の雑貨) チキンスパイカレード

2017年に佐賀市大財にオープンして以来、コーヒーとカレーが人気のカフェ マチルダ。今回は、旅が趣味というオーナーによってセレクトされた海外雑貨を中心に紹介します。

コロナ禍以前は、年2回以上は海外に向かい出向いていたというオーナーの佐野さん。『雑貨の用途はお客様次第。例えばこの韓国のマッコリ飲用の器…ドレッシングのミキシングボールになったり、アクセサリー入れになったりもします。基本的には面白いものを仕入れて、その先はお客様に委ねるというスタンスですね』。

韓国では、マッコリを注文するとやかんとともに出されるというこの器。たしかに毎日使うアクセサリーや時計入れにちょうどいいかも! クリップ等の文房具入れ、ミシン糸などの裁縫小物入れ、観葉植物を入れたり、洗濯バサミを入れたり…アイデア次第で用途は無限に広がります。そして海外関連では、台湾のカラフルなバッグなどもあります。ショッピングエコバッグとしてはもちろん、子供の習い事やアジア雑貨が好きな人へのプレゼントにも最適です。

海外雑貨以外では、古い喫茶店の珈琲チケットを元にしたブックマーカーやホッチキスといったデッドストック文房具も気になるところ。その他には様々な用途に使えそうな「マルシェバッグ」や「マチルダブレンドのコーヒー豆」などオリジナル商品にも力を入れておられます。マチルダでは国内外から集められた個性のかわいいものが不定期に入れ替わっていくので、それがより興味を惹きつけてくれます。

海外分の仕入れは東南アジアをメインにアメリカ等もあるそうですが、現在は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、買付けを現地の友人にお願いしているということです。不定期で入荷するのでお楽しみに…と微笑むオーナー。心が弾む雑貨との出会いはいつなのか…運命に任せるともまた粋ですね。

【INFORMATION】
カフェ マチルダ ☎なし ●佐賀市大財4丁目1-59 2F ●営業時間/11:30~19:00 ●定休日/基本は日・月・火曜 ※インスタ (@matilda_cafe_amigos) 掲載の営業カレンダーを要確認 ●駐車場/あり (2台)